

1

賃

金

月額平均賃金は男女とも0.8%増加
——厚労省調査

厚生労働省は3月31日、令和2(2020)年「賃金構造基本統計調査」結果を発表した。それによると、一般労働者の月額平均賃金(賞与、残業代除く)は30万7,700円(前年比0.6%増)。男女別では、男性が33万8,800円(同0.8%増)、女性は25万1,900円(同0.8%増)となり、男女ともに賃金の伸びが見られた。

調査は、全国の主要産業に雇用される労働者の賃金の実態を、雇用形態、就業形態、職種、性、年齢、学歴、勤続年数、経験年数別等に明らかにすることを目的として、毎年6月分の賃金等について7月に調査を実施している。なお、「公的統計の整備に関する基本的な計画」(平成30年6月3日閣議決定)で定められた「今後5年間に講ずる具体的施策」として、同調査における調査対象職種の見直しや学歴区分の細分化、回収率を考慮した労働者数の推計方法の変更などが挙げられたことを受け、今回調査より一部の調査事項や推計方法などが変更となっている。

55歳以上の男女で賃金に伸び

男女計の一般労働者の月額賃金は30万7,700円(年齢43.2歳、勤続11.9年)、男性33万8,800円(年齢43.8歳、勤続13.4年)、女性25万1,900円(年齢42.0歳、勤続9.3年)となっている。賃金を前年と比べると、男女計は0.6%、男性、女性はともに0.8%の増加となった。また、男性の所定内賃金を100とした場合の女性の賃金は74.4で前年(74.3)より0.1_{ポイント}上昇しており、男女間の賃金格差は縮小傾向にある。

年齢階級別に賃金の伸びを見ると、

男性では、~19歳、30~34歳、45~49歳の層を除いて増加。特に、55~59歳(前年比1.9%増)、60~64歳(同3.4%増)、65~69歳(同5.8%増)、70歳~(同7.3%増)の伸びが大きい。女性では、いずれの年齢階級層でも増加しており、特に、55~59歳(同2.4%増)、60~64歳(同2.2%増)、65~69歳(同1.7%増)、70歳~(同3.2%増)の伸びが大きくなっている。

男性は医療、福祉で高い伸び

主な産業別に賃金を見ると、男性では「金融業、保険業」(47万9,200円)が最も高く、次いで「教育、学習支援業」(42万9,400円)となっており、「宿泊業、飲食サービス業」(27万8,200円)が最も低い。女性では「情報通信業」(31万5,500円)が最も高く、次いで「教育、学習支援業」(30万6,900円)となっており、「宿泊業、飲食サービス業」(20万9,600円)が最も低くなっている。

賃金の伸びは、男性では「医療、福祉」(前年比4.9%増)、女性では「製造業」(同2.8%増)が最も大きくなっている。

正社員・正職員以外の賃金も増加

雇用形態別の賃金を見ると、男女計では、正社員・正職員32万4,200円(前年比同率、年齢42.2歳、勤続12.5年)に対し、正社員・正職員以外21万4,800円(同2.5%増、年齢48.8歳、勤続8.7年)となっている。

男女別に見ると、男性では正社員・正職員35万700円(同0.3%増)に対し、正社員・正職員以外24万200円(同

3.4%増)。女性では正社員・正職員26万9,200円(同0.2%増)に対し、正社員・正職員以外19万3,300円(同2.4%増)となっている。

大学院卒の賃金が月額25万超に

今回調査では新規項目として、新規学卒者の学歴別に見た賃金(月額)を追加している。それによると、男女計で大学院25万5,600円、大学22万6,000円、高専・短大20万7,200円、専門学校20万8,000円、高校17万7,700円となっている。男女別で賃金に大きな差はないが、大学院(男性25万4,100円、女性26万100円)、専門学校(同20万3,000円、21万1,500円)では、女性が男性をわずかに上回っている。

短時間労働者の時給額が増加

短時間労働者の1時間当たり賃金は、男女計1,414円(年齢45.9歳、勤続6.0年)、男性1,658円(年齢43.7歳、勤続5.2年)、女性1,323円(年齢46.8歳、勤続6.3年)となっている。前年と比べると、男女計は8.4%、男性は2.9%、女性は11.7%の増加となった。

主な産業別に1時間当たり賃金を見ると、男性、女性ともに、「医療、福祉」(男性3,807円、女性1,565円)が最も高い。1時間当たり賃金の伸びを見ると、男性では「サービス業(他に分類されないもの)」(前年比11.8%増)、女性では「宿泊業、飲食サービス業」(同20.9%増)、「製造業」(同17.9%増)で高くなっている。

(調査部)